

令和3年度 第2回 平塚市図書館協議会

令和3年11月19日(金) 15時~16時30分
平塚市中央図書館 3階ホール

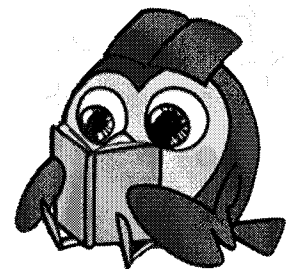
1 会長あいさつ

2 議 事

- (1)「これからの平塚市図書館運営のあり方」について
- (2)今期のテーマの決定及び検討
 - ア 視聴覚ライブラリーのあり方
 - イ 貸出点数及び予約点数の緩和のその後の検証
- (3)委員提案
- (4)報告事項
 - ア 事業報告(子ども読書活動推進プロジェクト、一日図書館員等)
 - イ (仮称)平塚駅前市民窓口センター予約図書受取所設置事業
 - ウ 平塚市地区図書館の指定管理候補者選定
 - エ 中央図書館電気工作物入替に伴う休館
- (5)今後の予定
 - 第3回平塚市図書館協議会
 - 候補日: 3月16日(水)PM、17日(木)PM、18日(金)PM

3 その他

4 閉 会



平塚市図書館協議会委員名簿

2021年8月1日～2023年7月31日

	氏名	分野	推薦母体	就任	備考
1	やまざき なおみ 山崎 奈穂美	学校教育関係者	平塚市立小学校長会	1期	
2	みやた あつし 宮田 篤	学校教育関係者	平塚市立中学校長会	1期	
3	すずき めぐみ 鈴木 めぐみ	社会教育関係者	神奈川県立図書館	1期	
4	くぼた さちこ 久保田 幸子	家庭教育の向上 に資する活動を行 う者	平塚市子ども読書活動推進協議会	2期	
5	たけのうち ただし 竹之内 禎	学識経験者	東海大学	3期	
6	はるき としひで 春木 俊秀	学識経験者	市民公募	1期	

《平塚市教育委員会》

所属・職	氏名
教育長	吉野 雅裕
社会教育部長	平井 悟
中央図書館長	小林 裕治
北図書館長	渡辺 佳子
西図書館長	上村 成樹
南図書館長	勝山 俊樹
中央図書館 管理担当長	高橋 章夫
中央図書館 奉仕担当長	杉山 秀司
中央図書館 管理担当 主査	杉山 真澄
中央図書館 奉仕担当 主査	松浦 祐太
中央図書館 管理担当 主査	高島 正和

2 議事

(1) 「これからの平塚市図書館運営のあり方」について

1

「これからの平塚市図書館運営の
あり方」について(令和3年3月策定)

策定の趣旨

本市を取り巻く状況

人口の減少や(超)高齢化、税収の減少、公共施設及び行政サービスの維持が困難

図書館における状況

超高齢社会に合せた図書館運営、デジタル化への対応、新型コロナウイルス感染症拡大を機としたサービスの転換

全体最適や選択と集中の視点から、民間活力を活用しながら、市民意見を参考に、中央図書館、地区図書館及び移動図書館がどうあるべきかを明示する。

策定の背景

図書館法 「図書館の設置及び運営上望ましい基準」

平塚市総合計画

第2期 平塚市教育振興基本計画～奏プランⅡ～

平塚市子ども読書活動推進計画(第4次)

平塚市図書館サービス方針

平塚市行財政改革計画

図書館の基本的運営方針として、図書館運営全体の方向性を示すものとして策定

図書館協議会では

平成27年・28年度

「平塚市図書館の運営体制」について協議、どのようなビジョンを持って図書館行政を行うのか明確にする必要性を指摘。

平成29年・30年度

「平塚市図書館のサービスのあり方」を議題に取り上げ、意見を出し合う。

平成30年12月

平塚市により「これからの平塚市図書館サービス方針」策定。

令和元年・2年度

「図書館の運営体制」の検討、「平塚市図書館のあり方」への意見書を中央図書館長へ提出。

平塚市図書館サービス方針（平成30年12月）

誰もがいきいきと学べ、自慢できる「お役立ち図書館」

- 1 子どもから大人まで、読書に親しむ環境をつくります
- 2 だれもが知的欲求を満たすことができる、学びの場を提供します
- 3 情報化・デジタル化に対応した資料や情報の提供をします
- 4 市民が抱える課題の解決につながるサービスを実施します
- 5 来館者に居心地がよいと感じてもらえるよう努めます
- 6 地元に根差し、平塚の魅力や歴史、文化に関する情報を発信します
- 7 学校や地域と連携し、生きる力の養成をはかります
- 8 図書館への関心を深め、愛着を持っていただくよう努めます

図書館の変遷

年月	できごと
昭和23 (1948) 年4月	旧海軍火薬廠研究部 (平塚市新宿149 江陽中学校区) に平塚市図書館を設置 (平塚市図書館創立)
昭和45 (1970) 年4月	中央図書館開館
昭和46 (1971) 年4月	平塚市図書館視聴覚ライブラリーの運営にかかる規定を制定
昭和57 (1982) 年	移動図書館「あおぞら号」が誕生
平成3 (1991) 年5月	北図書館開館
平成5 (1993) 年5月	西図書館開館
平成8 (1996) 年5月	南図書館開館

中央図書館、移動図書館

令和3年3月31日現在



- ・ 昭和45年(1970年)開館 延床面積 4,847.15㎡
- ・ 単独施設(1階こども室、視聴覚ライブラリー、2階 貸出室、3階 参考室)
- ・ 蔵書数 424,043冊(内開架冊数 200,136冊)
- ・ 収納可能冊数 225,000冊(内開架冊数 101,000冊)

- ・ 昭和57年(1982年)4月サービス開始蔵書数 40,771冊
- ・ 約2,000冊を積載し、図書館から距離のある地域13か所のステーションを2週間に1回巡回



地区図書館（3館）

北図書館

平成3年（1991年）開館
蔵書数 103,631冊
複合施設(1階 神田公民館、2階 北図書館)



西図書館

平成5年（1993年）開館
蔵書数 125,417冊 単独施設

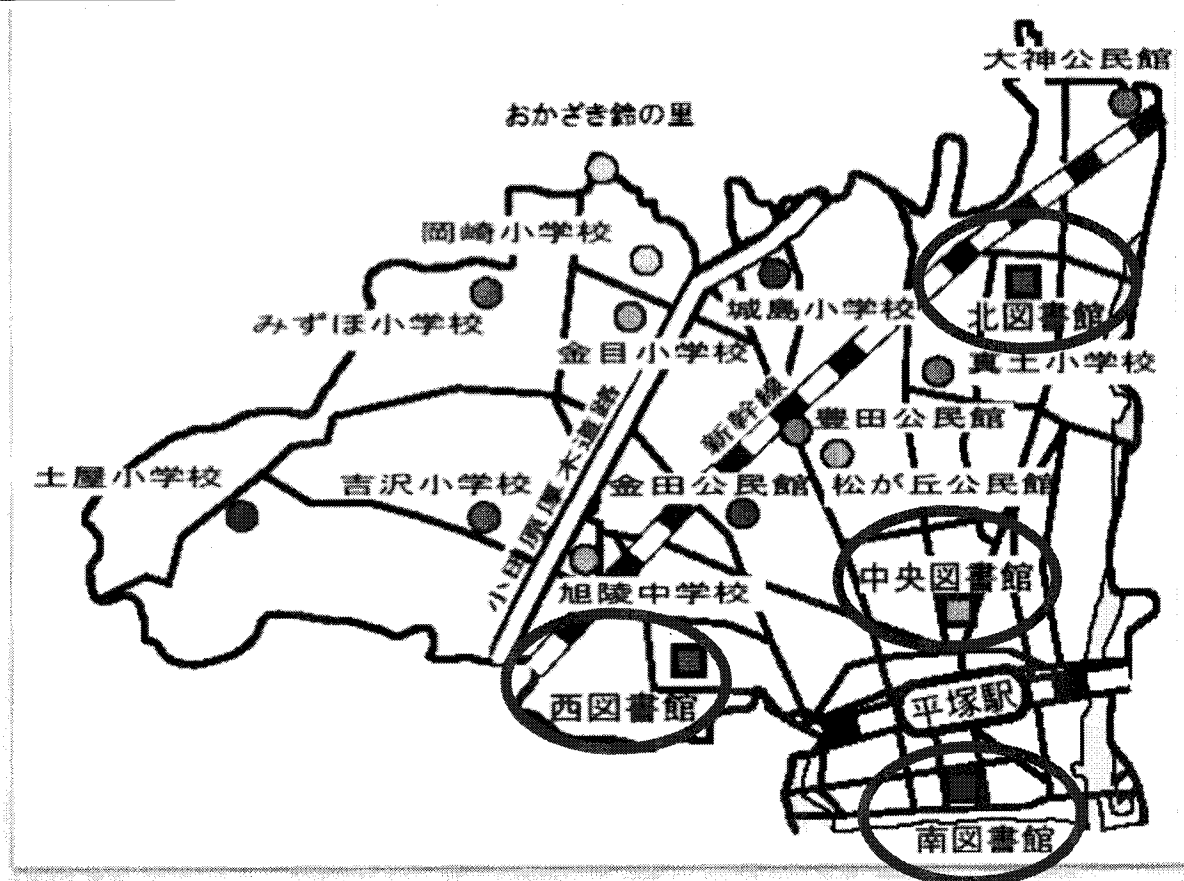


南図書館

平成8年（1996年）開館
蔵書数 130,919冊
複合施設(なぎさふれあいセンター
内3階、他福祉会館等)



図書館網



図書館の現状の問題と課題

施設面

資料面

利用面

サービス
面

移動図書館

施設面 現状の問題と課題

問題

課題

施設・設備の老朽化

快適な読書環境の確保

耐震化工事未実施

図書館の施設整備の方向性の検討

バリアフリーの不完全さ

新しい生活様式に合わせた環境整備

資料面 現状の問題と課題

問題

蔵書計画等の見直しの未着手

図書購入費の減少

資料の保存スペースが飽和状態

課題

市民ニーズに合った資料の収集と提供

資料の保存方法と除籍の見直し

資料のデジタル化の検討を含めた保存の仕組みの構築

電子図書館などのICT(情報通信技術)の活用

利用面・サービス面 現状の問題と課題

問題

来館者数・貸出点数の減少

図書館全体の業務が未整理

郷土資料の未活用

図書館を利用していない方へのアプローチの不足

地域の読書活動との連携不足

視聴覚ライブラリーの役割の低下

講座やイベントが少ない

課題

開館日や開館時間の見直し

効率的・効果的な図書館運営の検討

レファレンス機能の強化、郷土資料の活用

新たな利用者層の拡大への検討

子どもの読書活動の充実

視聴覚ライブラリーの見直し

アクティブシニア等の繋がり場

来館できない人へのサービス事業 現状の問題と課題

問題

移動図書館車の老朽化

移動図書館のコストの上昇

移動図書館を利用できる方が限定されている

移動図書館の稼働率が低い

非来館型サービスが少ない

※令和3年3月31日現在

課題

移動図書館巡回サービスの見直し

地域サービスの検討

図書館を利用しない方へのアプローチ

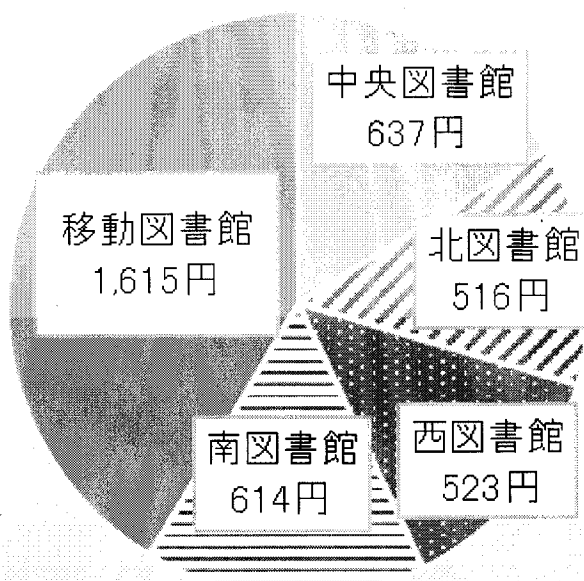
郵送サービスや宅配サービスの検討

障がい者サービスを含めたアウトリーチサービスの検討

図書館を利用しない人も多くいることにも注目しなければならないのはもちろん、図書館から遠い地区の市民が移動図書館を多く利用していることへの配慮も重要

利用者一人当たりの運営コスト

2018(平成30)年度
利用者1人あたりのコスト



2018年度の4館及び移動図書館にかかる利用者及び貸出点数に対するコスト比較をすると、移動図書館利用者1人あたりのコストは、各館利用者1人あたりのコストのおよそ2.5～3倍多くコストがかかっていることがわかります。

今までと同じ方法でサービスを提供し続けると、コストはさらに上昇、費用対効果は低下

※「平塚市公共施設白書（令和2年3月）」参照

「これからの平塚市図書館運営のあり方」

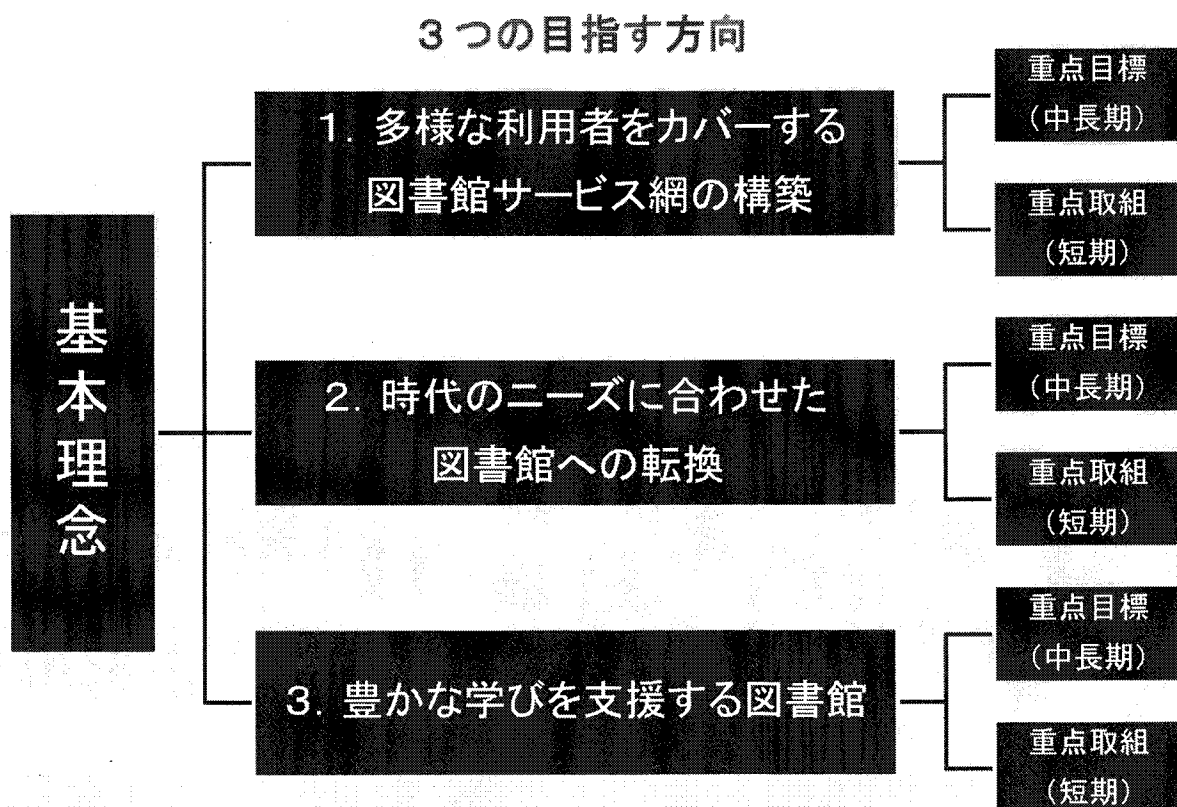
1. 策定の趣旨・位置づけ

このあり方は、今後の目指すべき図書館像を実現していくために、図書館法及び「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の基本的運営方針として策定します。「平塚市総合計画～ひらつかNEXT(ネクスト)～」や「平塚市教育大綱」「平塚市教育振興基本計画～奏プランⅡ～」との整合も図り、図書館運営の全体の方向性を示すものです。

2. 計画の期間

このあり方の期間は、2021年度から2030年度までの10年間とします。中間年には平塚市図書館協議会へ報告し、いただいた評価・意見を各取組に迅速に反映させるよう努めます。また、社会情勢の変化や事業の進捗状況などにより、見直しが必要となった場合には、適宜の見直しを行います。

構造



基本理念と目指す方向

基本理念：誰もがいきいきと学べ、自慢できる「お役立ち図書館」

目指す方向：

1. 多様な利用者をカバーする
図書館サービス網の構築

2. 時代のニーズに合わせた図書館
への転換

3. 豊かな学びを支援する図書館

ニーズに合わせて、各取組を推進

目指す方向

目指す方向1 多様な利用者をカバーする図書館サービス網の構築

- 図書館は、地域の実情に応じた読書環境を整備する重要な役割があります。限られた財政状況の中で費用対効果からの検証を含め、代替手段の十分な検討も行い、多様な利用者をカバーする図書館サービス網の構築をします。

目指す方向2 時代のニーズに合わせた図書館への転換

- 誰もが気軽に訪れ、居心地よく過ごすことができる図書館を基本としながら、利用者や地域のコミュニティを醸成するための取組を行います。新型コロナウイルス感染症の影響により、新たな図書館の利用方法として、非来館型サービスの提供を検討・導入します。

目指す方向3 豊かな学びを支援する図書館

- 図書館職員が「市民の学びを助けるコンシェルジュ」のような存在になるためには、図書館職員の資質・能力の向上が不可欠です。市民ニーズや地域の課題を把握し、資料と市民を適切に結びつけるための工夫や技術を高めていきます。

目指す方向1

多様な利用者をカバーする図書館サービス網の構築

重点目標（中長期）

1. 中央図書館と地区図書館の役割を見直し、4館体制を維持します
2. 地域の読書環境を整備し、移動図書館サービスを廃止します

重点取組（短期）

- 開館時間の変更
- 予約資料受取・返却場所の増設
- アウトリーチサービスの充実

目指す方向2

時代のニーズに合わせた図書館への転換

重点目標（中長期）

1. 大規模な施設整備の推進
2. ニーズにあわせた図書館整備

重点取組（短期）

- 滞在型図書館の導入
- 電子図書館・ICTの活用
- 視聴覚ライブラリー運営の転換

目指す方向3

豊かな学びを支援する図書館

重点目標（中長期）

1. 図書館職員の育成
2. 学校図書館に対する支援と体制の確立

重点取組（短期）

- 市民協働の図書館づくり
- 学習・ビジネス・くらしに役立つ図書館
- 幅広い財源確保の検討

令和2年11月19日に、令和元・2年度平塚市図書館協議会から提出された「平塚市図書館のあり方への意見書」のご意見を反映し、令和3年3月に「これからの平塚市図書館運営のあり方」を策定しました。



(2) 今期のテーマの決定及び検討

ア 視聴覚ライブラリーのあり方

前期図書館協議会からご意見をいただき、令和3年3月に中央図書館、地区図書館及び移動図書館がどうあるべきかについての方向性をまとめた「これからの平塚市図書館運営のあり方」を策定しました。その中で、目指す方向2として「時代のニーズに合わせた図書館への転換」を掲げ、短期的取組の一つに「視聴覚ライブラリー運営の転換」を挙げています。

「これからの平塚市図書館運営のあり方」(令和3年3月策定)から

短期的取組「視聴覚ライブラリー運営の転換」

デジタル時代のニーズをとらえ、ICTを活用した図書館サービスに転換するなども視野に入れ、視聴覚ライブラリーのあり方について検討します。

1. 視聴覚ライブラリーとは

視聴覚ライブラリーとは、学校教育・社会教育における視聴覚教育の振興を図るために設置された施設であり、現在では主に市内で活動する団体のために、視聴覚資料(DVD・ビデオ・16ミリ映画フィルム)と視聴覚機材(プロジェクター・スクリーン等)の貸出を行っています。また、市内在住、在勤、在学の方を対象に、16ミリ映写機操作を学べる講習会も実施しています。そのほか、来館機会の創出と映像作品から原作となった文学や関連資料を紹介することを目的とした映画会を中央図書館と西図書館で行っています。

※平塚市の図書館の設置及び管理等に関する条例施行規則

第3条(9) 学校教育及び社会教育における視聴覚教育の健全な育成を図るための視聴覚ライブラリーを設け、及びその運営に関すること。

2. 視聴覚ライブラリー運営事業 予算額

令和3年度 予算額 321,000円

報償費 19,000円(16ミリ映写機操作技術講習会講師謝礼、映画会ボランティア謝礼)、
消耗品費 8,000円、物品修繕料 100,000円(16ミリ映写機修繕)、その他備品購入費 194,000円
(団体貸出用DVD38,800円*5点)

3. 現状

●保有資料、機材について

- ・団体貸出用(DVD、16ミリフィルム、ビデオ)
- ・団体貸出用機器(16ミリフィルム映写機、プロジェクター、スクリーン等)

●購入について

- ・上映権付きDVDを購入(毎年5点程度)

●資料の状態について

16ミリフィルムは長年利用されていない古い資料が多く、状態が確認できていない資料を多数

保有している。

●貸出件数について

らぼーる2020 P24参照（当日配付資料）

●16ミリ映写機操作講習会、映画会 実施見合わせ

※一般貸出用（CD・DVD・ビデオ）とは別に運営しています。

平成28年度から個人貸出用資料（CDは寄贈分のみ受け入れ）は購入見合わせ

4. 職員

正規職員2名（他の業務と兼任）

5. 主な課題

視聴覚メディアの変化やインターネットの普及などにより利用者のニーズが変化していることから、サービスの継続については検討が必要です。また、保有している16ミリフィルムは劣化が進み、使用不可能なものが増えてきています。16ミリフィルムとして保管するものを整理し、適切な管理を行う必要があります。また、令和8年度に予定されている中央図書館の大規模修繕に向け、サービス全体の方向性を決定する必要があります。

6. 県内の状況

【継続している市】

川崎市、相模原市、鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、小田原市（令和3年4月リニューアル 地域資料・視聴覚コーナーの機能整理）

【廃止した市】

逗子市（平成17年度：図書館の建て替えを機に廃止）

横浜市（平成29年度：教育文化センター閉館に伴う視聴覚センター廃止→中央図書館で資料貸出）

海老名市（平成26年度：図書館の大規模改修を機に廃止）

大和市（平成28年度：図書館の移転を機に廃止、社会教育委員会議へも諮問）

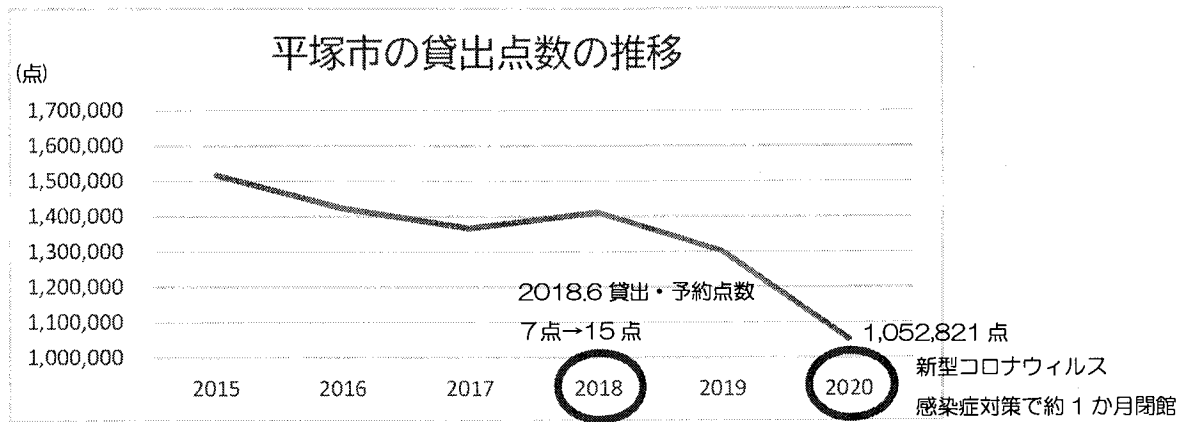
7. スケジュール

・スケジュール（案）

令和3年	11月	第2回図書館協議会でテーマ決定
令和4年	2月～3月	第3回図書館協議会 事務局からの現状等説明、委員協議
令和4年	8月	第4回図書館協議会 事務局からの現状等説明、委員協議
令和4年	11月	第5回図書館協議会 報告書提示、提出

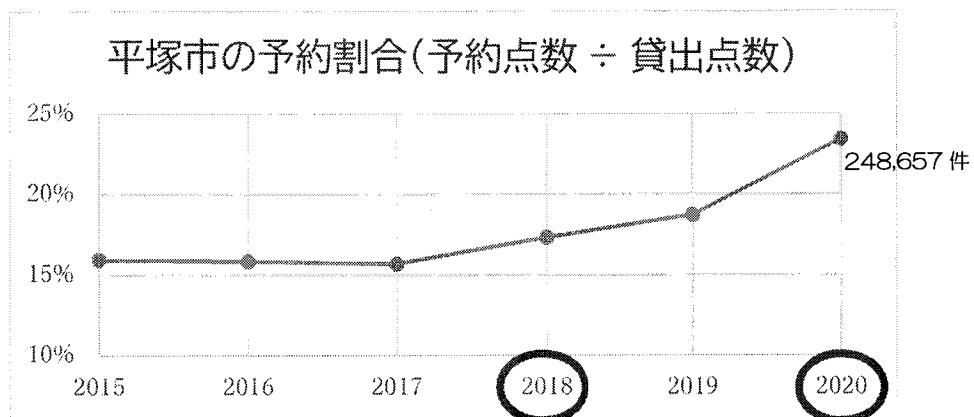
イ 貸出点数及び予約点数の緩和のその後の検証

平成30年6月29日から、図書資料等の貸出点数及び予約点数がそれぞれ7点から15点に拡充しましたが、貸出と予約の実績は次のとおり推移しています。



※貸出点数は平成30年度に微増となりましたが、その後減少傾向が継続しています。

減少率は近隣市町村と概ね同様となっています。



※予約点数の拡充に伴い、貸出点数に対する予約点数の割合は年々増加しています。

2020年度では4.2冊に1冊が予約で貸出されています。近隣市においても同様の傾向です。

今後、(仮称)平塚駅前市民窓口センター予約図書受取所の開設に伴い、予約サービス利用者の利便性が向上し、予約割合の増加はますます顕著になると想定しています。

① 予約点数の変更に伴う影響について

予約点数が増加することで次のような影響がより顕著になっています。

- ・ 大部分の新刊、新着図書が図書館の書架に並ぶことなく貸出となる。
- ・ ベストリーダー(人気図書)は受入から2~3年程度、図書館の書架に並ばない。
- ・ 図書館の書架の大部分は需要の少ない図書が並んでいる。(図書館施設を利用しなくなる)
- ・ 予約資料は回送等のタイムラグが多く、次の予約者に渡るまで平均3週間かかる。
- ・ 利用者の利便性向上となるものの、図書館に来館しても知りたい情報を予約して長期間待たなければ得ることができない。

※児童書は、児童自ら予約することは難しいことから15点予約されていることは稀ですが、図書館に来館して、選んで借りていくことが重要です。より多くの児童に公平に「学びの機会」を提供することが非常に大切な図書館の使命だと考えます。学びの機会を逃さないよう対策が必要です。

② 近隣市比較

	平塚市	茅ヶ崎市	寒川町	藤沢市	厚木市	伊勢原市	秦野市
貸出日数	14日間	15日間	15日間 (視聴覚は8日間)	14日間	14日間	14日間	14日間
貸出点数							
図書資料・雑誌	15	10	10	10	10	10	10
視聴覚資料	(内7)	5	2	5+2	5	3	4
予約点数							
図書資料	15	10	5	6	25	10	8
雑誌			2				4
視聴覚資料	(内7)	5	2	3+2		2	2

③ 予約点数の再検証について

以上のことから、次の点に留意して予約点数15点が適正であるか検証が必要です。

- ・多くの市民が公平に利用できているか
- ・ルールやモラルが守られているか。(とりあえず予約する、予約資料の用意ができていても連絡なしに取りに来ないことを繰り返す)
- ・市民の教育・学びの機会が以前より失われていないか
- ・図書購入(リクエスト)に与える影響はどうか など。

※予約点数が多くなると、複本も多く用意するなどの検討も同時に必要です。



【中央図書館 2階貸出室予約棚】

新しく、ニーズの高い図書が大部分を占めています。

常時、1,000冊程度が確保されています。

毎日20~40冊程度(予約数の約2割)が予約確保期限切れとなり、次の予約者に回ります。

(4) 報告事項

ア 事業報告

令和3年度子ども読書活動推進プロジェクト（第1回） 「読書感想文の書き方講座」「ビブリオバトルに挑戦しよう」報告

日時 Aコース・8月11日（水）10：00～12：10 「読書感想文の書き方講座」
8月12日（木）10：00～12：10 「ビブリオバトルに挑戦しよう」
Bコース・8月11日（水）13：40～15：40 「読書感想文の書き方講座」
8月12日（木）13：40～15：50 「ビブリオバトルに挑戦しよう」

会場 中央図書館3階ホール

講師 「読書感想文の書き方講座」 竹之内 禎 先生（東海大学准教授）
「ビブリオバトルに挑戦しよう」 西田 洋平 先生（東海大学講師）

受講者 Aコース9名、Bコース10名（両講座とも欠席者なし）

職員 図書館職員、教育指導課職員、教育研究所職員、社会体験研修教員

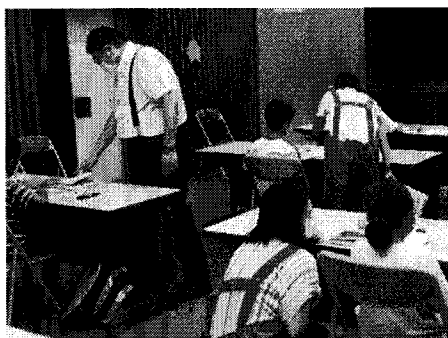
内容 「読書感想文の書き方講座」

読書感想文の説明のあと、講師による『ネコリンピック』（まずだみり/さく、ひらさわいっぺい/え ミシマ社）の読み聞かせを実施。その後、ワークシートに基づき、タイトルや表紙デザイン的气になるところ、本との出会い、一番気になったところ等をどんどん付箋に書き出した。原稿用紙の書き方について学んだあと、整理・作成した付箋を使用しながら読書感想文を書き進めていった。

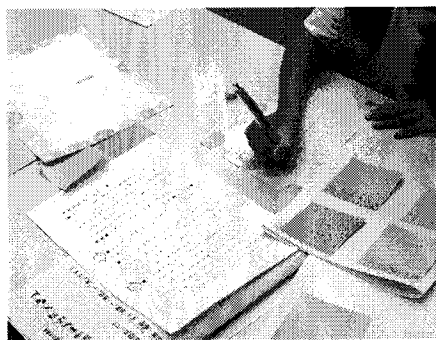
「ビブリオバトルに挑戦しよう」

ビブリオバトルとは何か、の説明のあと、講師を含む大人3名でのビブリオバトルを開催（受講者は投票で参加）。その後、準備シートと付箋を使い、ビブリオバトルで発表する内容について整理した。ミニ・ビブリオバトル（発表3分、質疑応答2分。受講者を2グループに分けて実施）を行い、チャンプ本を決定した。

読書感想文の書き方講座

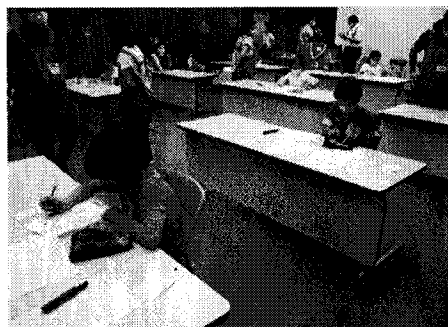


←ワークシートに基づき、気になるところ等自分の感じたことや考えを付箋に書き出していく



←付箋を使って整理した自分の考えや感想を、原稿用紙の書き方を確認しながら書き進めていく

ビブリオバトルに挑戦しよう



←準備シートを確認しながら、付箋を使って発表内容を整理していく。講師や職員が、悩んでいる子に声をかけていく



←3分間の発表と2分間の質疑応答。同じ本でも、人によって感想や発表の仕方が違い、興味深そうに聞いていた

全体を通して

- ・コロナ禍（緊急事態宣言発出中）での実施となったが、当初よりコロナ対応（受付時の手指消毒・検温の徹底、ソーシャル・ディスタンスの確保、会場内の換気、使用した用具の消毒等）を踏まえた上で計画していたため、大きな混乱はなかった。
- ・前回（平成31年度）は応募方法を中央図書館へ来館しての先着順だったが、今回はメール、FAX、窓口での申し込みによる抽選へ変更した。
- ・読書感想文で「読む力」と「書く力」、ビブリオバトルで「伝える力」を養うという目的は達成できたと感じた。

アンケート一部抜粋

「読書感想文の書き方講座」

- ・学校に役立つからよかった。また参加したい。
- ・読書感想文を書くのは難しそうと思っていましたが、今日の授業を受けて読書感想文をかくのはこんなに簡単なんだなと思いました。ありがとうございました。
- ・読書感想文を書くのが苦手でしたが、書き方が分かりました。
- ・本を読むのが苦手で、読書感想文も書く気にはならなかったのですが、この講座を機にやってみようと思い、参加しました。思いのほか、分かりやすく説明してくれて、やる気ができました。またこの講座があったら参加したいと思います。
- ・ここで教わったことはこれからも役だつので役立てていきたいです。

「ビブリオバトルに挑戦しよう」

- ・ビブリオバトルは何だかわからなかったけど、とてもおもしろかったです。ありがとうございましたー！
- ・またビブリオバトルに挑戦したいと思った。先生の話が伝わりやすかった。おもしろかった。
- ・先生の話がおもしろく楽しめた。またやりたい。
- ・発表のときは緊張したけど、とても楽しかったのと、1番になれてうれしかったです。また来年もあればきたいです。
- ・今日は、色々な人の発表スタイルが分かって参考になったことがありました。今後もならつたことをいかして、生活していきたいです。

令和3年度 一日図書館員報告

- 日時** 7月28日(水)～8月6日(金)の夏休み期間中
会場 中央図書館(8回)、北図書館(6回)、西図書館(6回)、南図書館(6回)
対象 市内在住・在学の小学生
内容 図書館の説明、館内(バックヤード)見学、本の貸出・返却体験(貸出 返却などを事務室にて行う)、本の探し方実習(しらべものクイズ)

全館合計

学年	定員	応募者数	当選者数	落選者数	欠席者数	参加者数	実施回数
1～2年生	56	172	56	116	5	51	11
3～4年生	44	201	44	157	6	38	8
5～6年生	38	92	38	54	2	36	7
合計	138	465	138	327	13	125	26

※ アンケート「本のさがしかたがわかりましたか。」で「わかった」と回答した人数 115人

アンケート一部抜粋

- ・としょかんの人のきもちがわかりました(1・2年生)
- ・本のひみつをしるのがたのしかったです(1・2年生)
- ・図書館がこんなしくみになっててすごく図書館がこーなっているのがわかった。(3・4年生)
- ・きょういろいろなことをたいけんしてもっととしょかんがすきになりました。(3・4年生)
- ・本当の図書館(員)になりたいです。(3・4年生)
- ・通路にいろいろなへやがあったので、そのへやについてもっと知りたかったです。(5・6年生)
- ・今日のお話を聞いてこれからは、色々な調べ方で言葉を変えてできればいいなと思った。(5・6年生)
- ・とても楽しかったです。わからないことがわかって図書館にますます行きたくなりました。(5・6年生)
- ・図書館のかたがいつもこんなにいそがしく仕事をしているとは思いませんでした。これからもがんばってください!(5・6年生)
- ・いちばん楽しかった。探検のことで、ふだん見れない場所や気になることを見れてよかったし、楽しかった!(5・6年生)